

2019年11月25日

IoTを活用した総合サービス「Mazak iCONNECT™」に ファナック社製ロボット向けの保守診断機能「ZDT(ゼロダウンタイム)」を追加 ～「ZDT on Mazak iCONNECT」のサービス開始～

ヤマザキマザック株式会社(代表取締役社長:山崎高嗣、愛知県大口町、以下マザック)は、シスコシステムズ合同会社(代表執行役員社長:デイヴ・ウェスト、東京都港区、以下シスコ)による技術協力のもと開発したコネクティッドサービス「Mazak iCONNECT™(マザック アイコネクト)」に、ファナック株式会社(代表取締役社長 兼 CEO:山口賢治 山梨県忍野村、以下ファナック)のロボット向け保守診断機能をオプションとして追加し、「ZDT on Mazak iCONNECT」として2020年4月より提供開始します。

現在、製造現場では労働人口の減少と熟練作業者の不足への対応や、更なる生産の効率化を目的として、ロボットを活用した自動化システムの導入が進んでいます。その一方、ロボット1台のトラブルが長時間の生産停止につながることも懸念されるため、ロボットに対する保守サービスのニーズも高まっています。

2015年にファナックとシスコはロボットの稼働率向上に向けた保守診断機能「ZDT(ゼロダウンタイム)」のクラウド対応を始めました。一方、マザックは2015年よりシスコと工作機械のIoT化に関して協業を進めており、2018年にコネクティッドサービス「Mazak iCONNECT™」を発表し、2019年4月よりサービスを開始しています。

ファナックの「ZDT」とマザックの「Mazak iCONNECT™」は、共にシスコの産業向けIoTソリューションを採用したプラットフォームで構成されており、今回の機能連携が実現しました。マザックの「Mazak iCONNECT™」に加入しているお客様は、新たな通信機器やインターネット接続回線を追加することなく、「ZDT」の機能をオプションとして利用することができます。

これにより、お客さまは「Mazak iCONNECT™」を通してマザック製工作機械とそれに連結されたロボットを含む生産システム全体の保守サービスを受けることができます。

「ZDT on Mazak iCONNECT」はマザックが販売する自動化オプションに含まれるファナック製のロボットだけでなく、お客様もしくはインテグレータが準備したマザック製の機械に連結されたファナック製のロボットも対象となります。

マザックは既に自社工場で「ZDT on Mazak iCONNECT」の活用を開始しており、2019年11月25日(月)から28日(木)に美濃加茂製作所第一工場、第二工場にて開催するプライベートイベント「DISCOVER 2019」(<https://www.mazak.jp/discover2019/top/>)にて、「MAZAK iCONNECT™」および「ZDT on Mazak iCONNECT」の展示デモを行っています。

掲載されているプレスリリースは、報道関係者へ発表した情報の要約です。
予告無く内容が変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください